

タイヤは空気によって 自転車(乗員・荷物)を支えています。

空気圧が低い状態(低内圧)でご使用されると、以下のトラブルの原因となります。

1 チューブがハの字に切れている

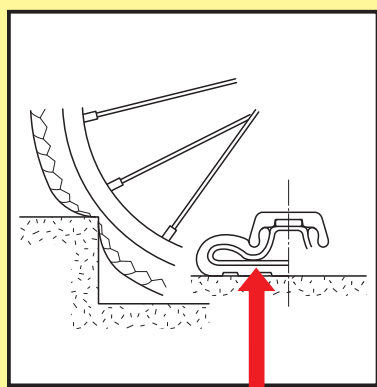


低内圧で段差などの障害物を乗り越えると、写真のようにリムと障害物の間でチューブを挟み、チューブが切れてしまいます。

リム打ちパンクと呼ばれるパンク故障です。
チューブがハの字に切れているのが特徴です。



低内圧で乗り越えた場合

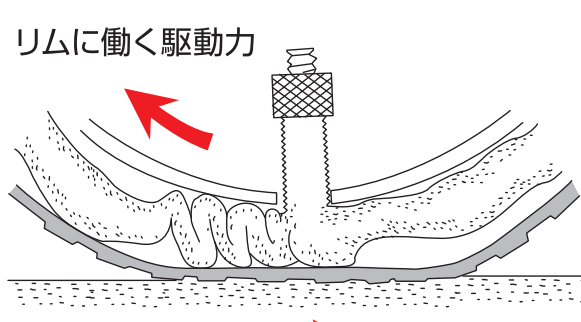


ハの字に切れます

3 チューブが折れ重なってパンク



パンクした状態で走行しますと、リムとタイヤ間のすべりが生じ、バルブ口付近にチューブが折り重なる状態になります。
チューブの折り重なりがパンクの原因ではありません。

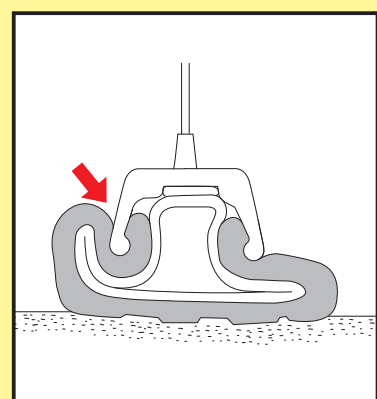


地面からタイヤに働く力



タイヤの空気が抜けた状態

低内圧のまま走行すると、チューブが片寄ります。
タイヤサイドとリムの縁が擦れた痕が残るのが特徴です。



パンクして、ほとんど空気が抜けたままで走行しないでください。

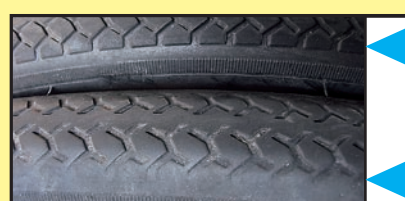
2 タイヤにひび割れができた



低内圧で使用すると、タイヤ・チューブには、次のような痕跡が残る事があります。

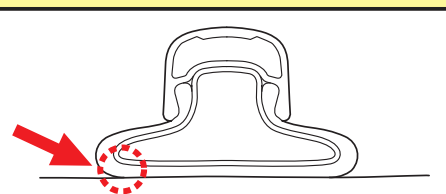
チェック1

タイヤのショルダー部が
磨耗している



正常品

ショルダー部(側面に近い部分)まで接地し、写真下のよう
に、磨耗します。

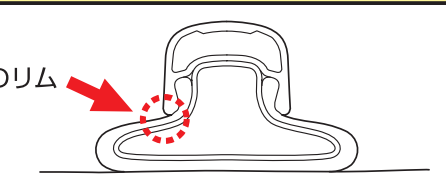


チェック2

リム付近が磨耗している

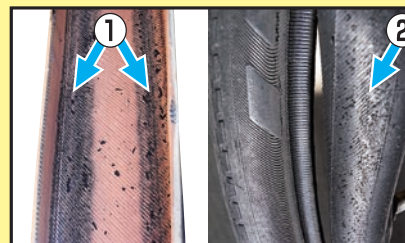


リムの淵と、タイヤサイド部のリム
付近が接触し、磨耗します。

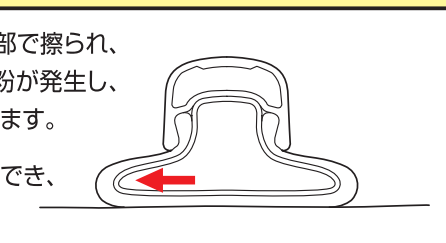


チェック3

タイヤ内面のサイド部
で、チューブが削れて粉
ができています

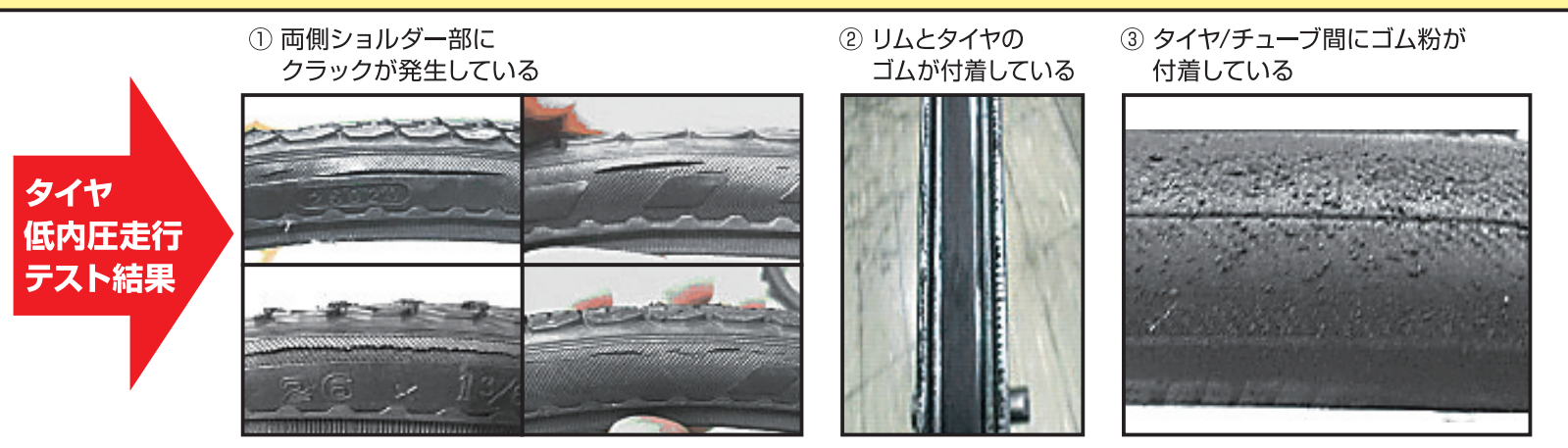


①タイヤ内面とチューブがサイド部で擦られ、
チューブのサイド部が削られ、粉が発生し、
タイヤ内面のサイド部に付着します。
②チューブにはカーカスの模様がで、
パンクする場合もあります。



●再現試験

タイヤを低内圧にして耐久試験をおこなった結果、同様の現象(ひび割れ、摩耗痕等)を確認しました。

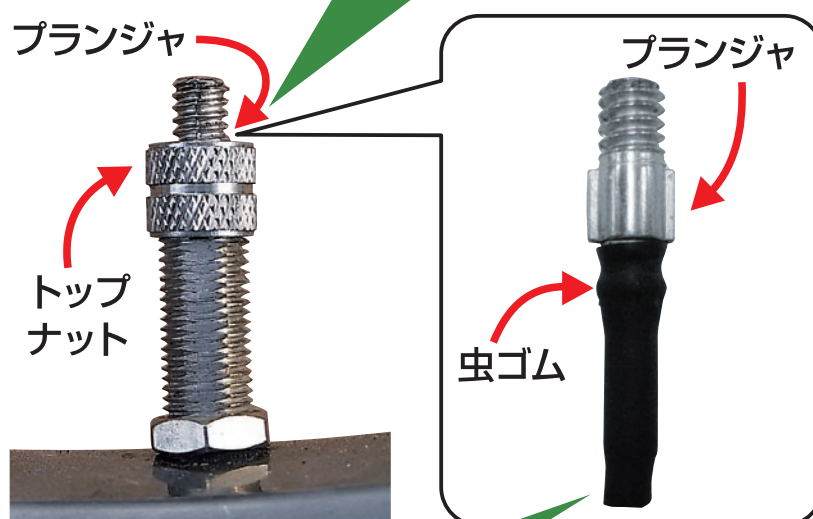


低内圧で使用するとタイヤのショルダー部の歪が大きくなり両側ショルダー部にクラックが発生するのが特徴です。

ご存知ですか？

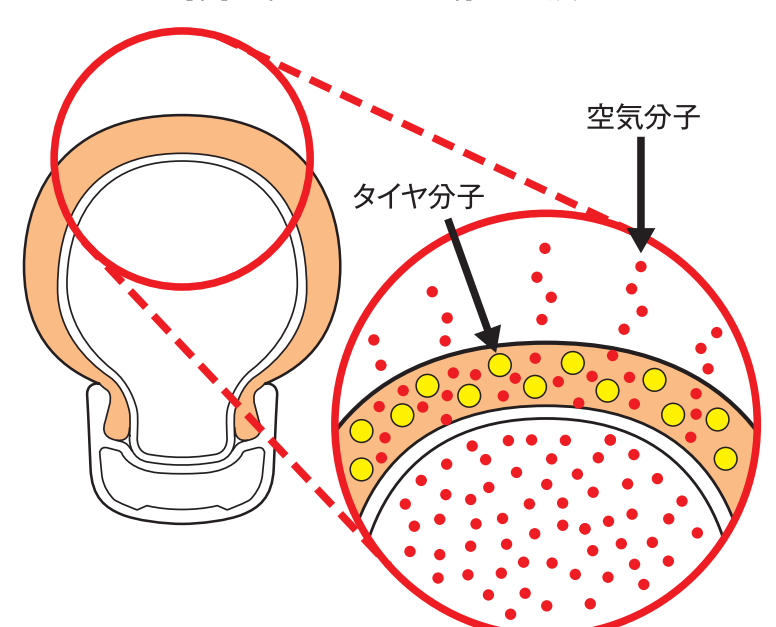
タイヤの空気は何故少なくなるの？ (保管しているだけで空気は洩れて減少します。)

バルブ口が緩んでいると
空気が洩れます



虫ゴムが劣化していると
空気が洩れます

空気洩れは、バルブ口以外にもチューブ本体からも生じます。
空気の分子はタイヤ・チューブ(ゴム)の分子よりも小さいため、時間が経つにつれて徐々に洩れます。



※図は解説のためのイメージです。

タイヤの空気圧をチェックしましょう
乗る前の日常点検と、一ヶ月に一回の充填をしてください
(適正な空気圧で走りも軽くなります)